

# 算数科 小学校 2年

単元名「かさ」

本時の目標

- いろいろな入れものに1ℓ と思う量の水を入れ、それを確かめる活動を通して、1ℓの量感を豊かにする。

## 単元の流れ

【第1時】  
2つの水筒の水のかさを比べる。

【第2時】  
ℓ ますを使って、いろいろな入れ物に入る水のかさを調べる。

【第3時】  
dl ますを使って、いろいろな入れ物に入る水のかさを調べる。

【第4時】  
ml を用いるよさ、  
ml・dl・ℓの相互関係を理解する。

【第5時】  
1ℓの量感をつかむ。

CLICK

かさ当てゲームのワークシートはこちら

CLICK

詳しい指導案はこちら

【第6時】  
たしかめ道場  
評価問題



HOME

単元の流れへ

## 本時の流れ

本時のめあての把握  
・前時を想起するとともに、本時のめあてを確認する。



問題の把握

・具体的な学習課題を理解する。

問題解決1

・個人で量の見当付けをする。  
・自分の予想をペアで話し合う。(ペアトーク)  
・実測し、予想と比較する。

問題解決2

・形の多様な入れ物で予想を立てる。  
・実測し、予想と比較する。  
・底面積と深さの関係に気付く。

学習のまとめ  
(振り返りシート)

【学習のまとめ(振り返りシート)】

☆自分の考えの変容と次に挑戦したいことを書かせることにより、自己を見つめさせるとともに思考力・表現力の状況を把握する。

【めあて】  
かさ当てゲームをしよう

「1ℓはどれくらいかな」

CLICK

かさ当てゲームの指導案はこちら

【めあての把握】

☆本時のめあては、1ℓ ますで身に付けた量感をいろいろな入れ物でも身に付けられるようにすることである。

(発問) いろいろな入れものに1ℓ と思うかさを入れてみましょう。

【いろいろな入れ物】

☆1ℓ をつくる容器として、なべ、ペットボトル、洗面器、バケツ、水槽など、児童にとって身近な容器をグループ数分用意する。

【量の見当付け】

☆1ℓ ますの大きさを想起させ、どのくらいまで入れるとよいか考えさせてから、作業に入らせる。  
☆色テープなどで予想を分かりやすく表示させる。

【ペアトーク】

☆予想を立てた根拠を相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりして活動させる。  
☆相手に分かりやすく伝えることによって、表現する力を育てる。

【実測との比較】

☆実測をして予想値と比較させ、量感を育てる。

(発問) 水1ℓ は、どのくらいの深さになりますか。

【準備物(いろいろな入れもの)】

☆かさ当てゲームで使用した容器の他に、見かけ上の変化が大きい入れもの(一升瓶など)も用意して実測への意欲を高める。  
☆名前を書いた小さなシール等を容器に貼り、1ℓの深さの予想を明示することにより、一人一人が意識をもって適用問題に取り組めるように工夫する。

(発問) 今日の学習について、ワークシートを書いて振り返りましょう。